



クイックスタートガイド

Free Guide

日本語 Japanese

サポート・販売:

VERBI ソフトウェア・コンサルティング・ソーシャルリサーチ GmbH、ベルリン、ドイツ

<http://www.maxqda.com/lang/jp>

著作権法に違反しない範囲での個人的学習や研究、評論やレビュー等を除き、本資料のどの部分も、書面による許可なしに複製することはいかなる形でも禁じられています。

MAXQDA は VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH, Berlin/Germany の登録商標です。Mac は米国等の Apple Computer, Inc. の登録商標です。Microsoft Windows、Word、Excel および PowerPoint は、米国等の Microsoft Corporation の登録商標です。SPSS は米国等の IBM Corporation の登録商標です。Stata は米国等の Stata Corp LLC の登録商標です。その他、米国等の商標・登録商標は、各所有者にその権利が帰属します。

© VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH、ベルリン、2020 年

目次

はじめに.....	4
MAXQDA ユーザーインターフェース.....	5
プログラムの起動	5
ユーザーインターフェース	7
データの保存と保存場所に関する注意.....	9
データをインポートして検討する	11
データをインポートする.....	11
データを検討する.....	12
データを検索する.....	15
色彩コーディングとメモ	16
データをコーディングする.....	18
データのセグメントをコーディングする.....	18
データを分析する	21
文書をアクティブ化する.....	21
特定のコードでコーディングされた箇所(コード付セグメント)を呼び出す	22
図解ツールを活用する.....	23
混合研究法による分析	24
文書変数を定義する.....	24
変数値を入力する	25
コードの頻度を変数に変換する	26
分析における文書変数.....	27
おわりに.....	28
参考文献	29

はじめに

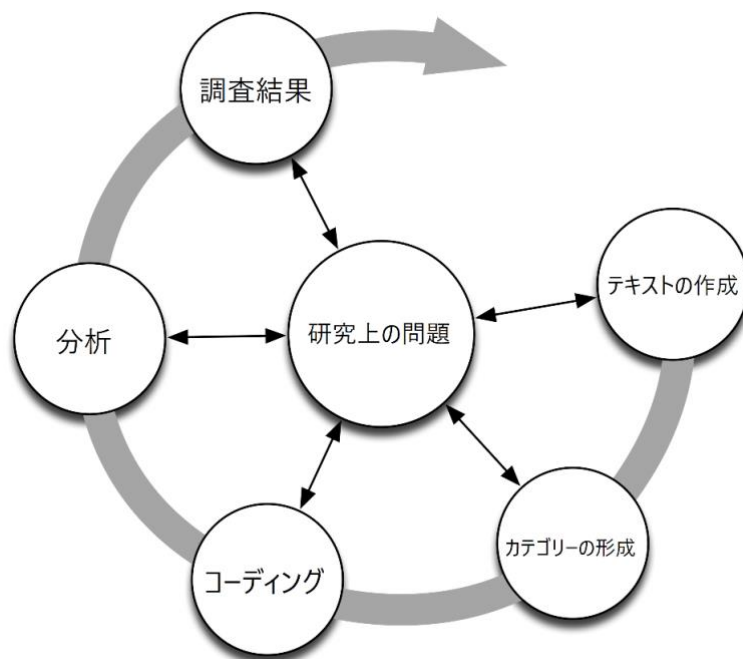
MAXQDA クイックスタートガイドへようこそ！ MAXQDA を用いた分析の最初の一步をご案内します。本ガイドは簡潔を旨としますので、社会調査や分析の多様な方法については、末尾の「参考文献」をご覧ください。

質的研究には無数の方法がありますが、その多くは MAXQDA で効率化できます。なぜなら各種方法には右図のような共通の構造があるからです。

質的分析では複数／多数のカテゴリが用られます。カテゴリはデータから帰納的に生成されたり、既存理論・研究から演繹的に設定されたりします。カテゴリは、しばしばコードやキーワードとも呼ばれます。

カテゴリはデータを整理／分類／体系化します。分析的機能を持ち、主題の同定に留まらない、複雑な過程を構成します。なお本ガイドと MAXQDA では原則として、カテゴリをコードと呼びます。

コードを用いたデータ分析には時間が掛かりますが、心配無用です。質的データ分析ソフト(QDA)が分析を強力に補助します。なお MAXQDA はコードを用いた分析に最適ですが、データの整理のためだけに使用することも、語彙(単語やその組合せ)の探索のみに使用することも可能です。



MAXQDA ユーザーインターフェース

プログラムの起動

MAXQDA を起動しましょう。ユーザ名をここで入力できます。新規プロジェクト作成には、＜新規のプロジェクト＞から任意のファイル名を入力、保存先を選択します。最適な保存場所は PC のローカル・フォルダです。ネットワーク上のドライブや USB への保存はお勧めしません。iCloud や Dropbox、Google Drive など自動同期サービスへの保存も推奨しません。理由は、ファイルがオンライン保存されたまま別の PC で作業が行われるとアクセスが競合するためです。



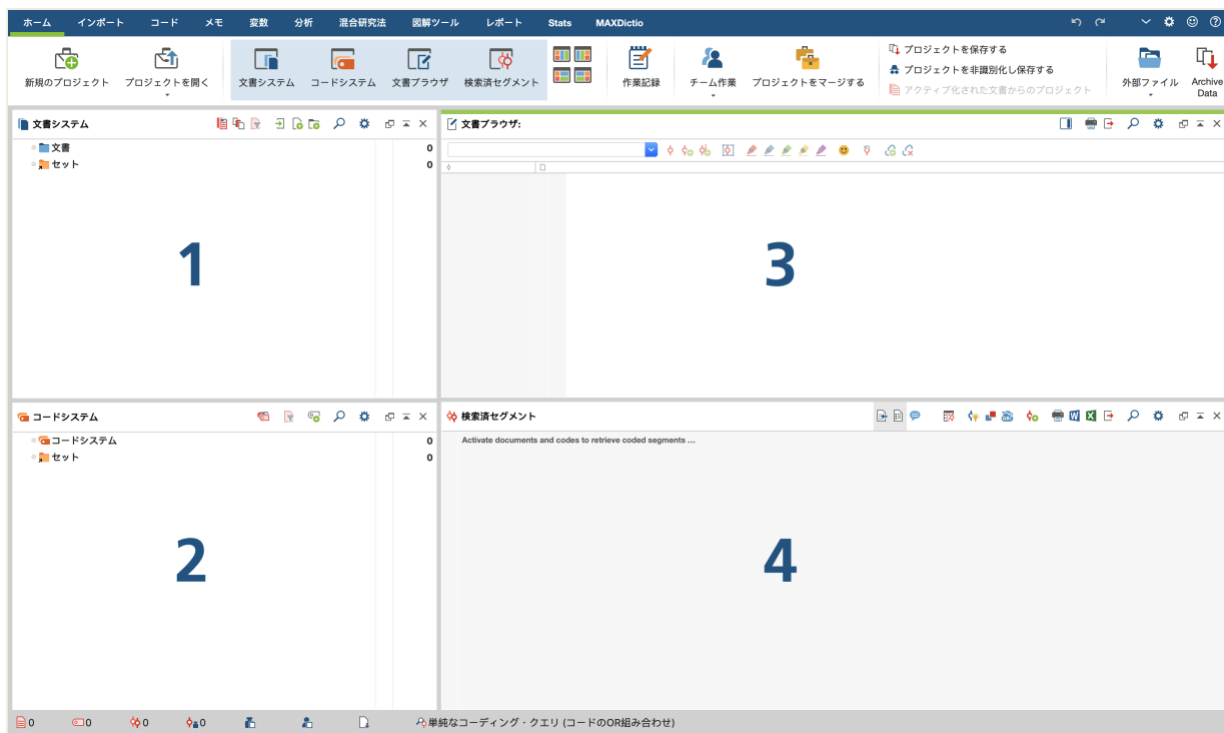
MAXQDA 2020 のプロジェクトファイルには拡張子“mx20”が付きます。Windows のエクスプローラーや Mac の Finder ではファイルは“MAXQDA 2020 Project”として示されます。

Excel がワークシート(.xlsx)で、Word がテキスト形式(.docx)で作業を行うように、MAXQDA は“プロジェクト”で作業します。プロジェクトには、MAXQDA にインポートして作成したコードやメモなどほぼ全てが保存されます。

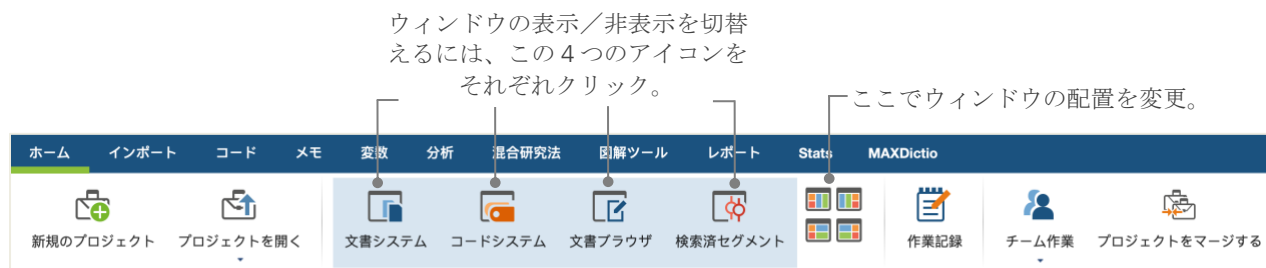
スタート画面右側には、MAXQDA オンラインマニュアル、MAXQDA ビデオチュートリアル、MAXQDA チームへのフィードバックなどのリンクがあります。

ユーザーインターフェース

新規プロジェクトを開きましょう。MAXQDA の特長である 4 つのウィンドウ(まだほぼ空白)が表れます。



ウィンドウ 1 は<文書システム>、2 は<コードシステム>、3 は<文書ブラウザ>、4 が<検索済セグメント>です。ウィンドウの配置変更も可能です(左右入替え、2 列→3 列など)。



上部のバー(「リボン」と呼ぶソフトもあります)から多くの機能にアクセスできます。＜ホーム＞タブの各ウィンドウのボタンからは表示／非表示を切り替えられます。各ウィンドウを切り離したり(アンドック)、第二ディスプレイに移動もできます。目的や環境に合わせて画面配置を決めましょう。

ファイルは全て＜文書システム＞ウィンドウにインポートされます。コードは＜コードシステム＞で管理できます。＜文書ブラウザ＞ではデータを表示・編集できます。＜検索済セグメント＞ではコーディングされた箇所の検索と表示ができます。

データの保存と保存場所に関する注意

MAXQDA はインポート・コメント・定義されたものなどを、“プロジェクトファイル”と呼ばれる単一ファイルで管理します。1 プロジェクト = 1 ファイルが原則です。MAXQDA 2020 ではファイル名に“mx20”の拡張子が付きます(古いバージョンでは“mx18”や“mx12”)。ファイルの安全を期すため、以下のボックスを必ずお読みください。

注意: MAXQDA はインポートデータやユーザ作成データを基本的に全て自動保存します。しかし念の為、＜ホーム＞→＜プロジェクトを保存する＞で、外部記憶装置に毎日一定頻度でファイルをバックアップすることを推奨します。

“プロジェクトファイル”にはリサーチプロジェクト、学士論文、修士論文作成に必要なデータを全て含められます。ただし多量の動画や音声データをインポートするとファイルが重くなるのでご注意ください。MAXQDA の標準設定では一定(5MB)以上の画像と PDF 文書が埋め込められないようになっています。設定変更は可能ですが、サイズが大きすぎると、研究チーム内でデータ交換しあうのが困難になる場合があります。

重要なキーワード

本ページは MAXQDA の基本キーワードについて説明します。

プロジェクト は MAXQDA のシステムファイル(=「作業単位」)そのものです。テキスト・PDF・画像などインポートされたデータ、および、作成されたコード・メモ・コメント・コーディングを含みます。

文書 (documents) とは、具体的な分析対象たる個々の事例です。インタビュー・フォーカスグループ・ビデオ・音声・論文等、多様なデータを文書と見なします。

コード は最も重要な分析ツールです。インタビューの一部・写真切り抜き・ビデオクリップ等、ハイライトすべきと考えられる部分に割り当てられます。

コードシステム または **コードツリー** は、階層的に組織されるコードとサブコードの全体を指します。

コーディング とは、データ(文書)中で選択されたセグメントにコードを割り当てることをいいます。

コード付セグメント は、コードが割り当てられた箇所のことです。

メモ とは覚え書きです。アイデア・仮定・分析過程で生じた疑問・データから見てきた仮説等、様々な場面でメモを書き留めましょう。

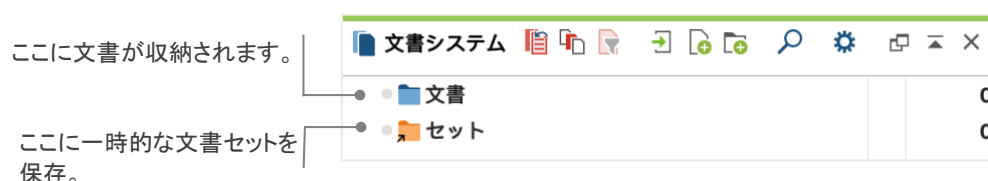
コメント はメモより簡略です。特定のコード付セグメントに関して「矛盾」とか「ここは重要！」など思ったことを短く書き込めます。

一覧表 は様々な機能に備わっているオプションです。コード付セグメント・メモ・変数・リンク等を一覧できます。全ての一覧表の基本原理は同じで、一覧表から個々の要素への素早いアクセスが可能なため、大量のデータの中で方向を見失うのを防げます。

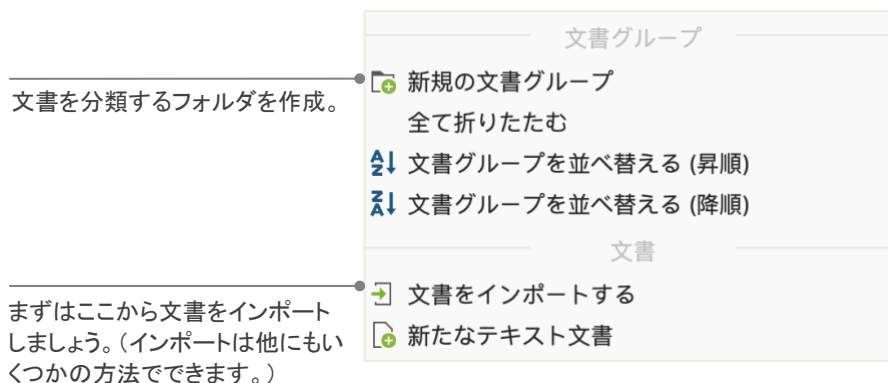
データをインポートして検討する

データをインポートする

データのインポートにはいくつか方法があります。ここで<文書システム>の構成をみましょう。



文書かその横のアイコンを右クリックしメニューを開きましょう。下図はその一部です。

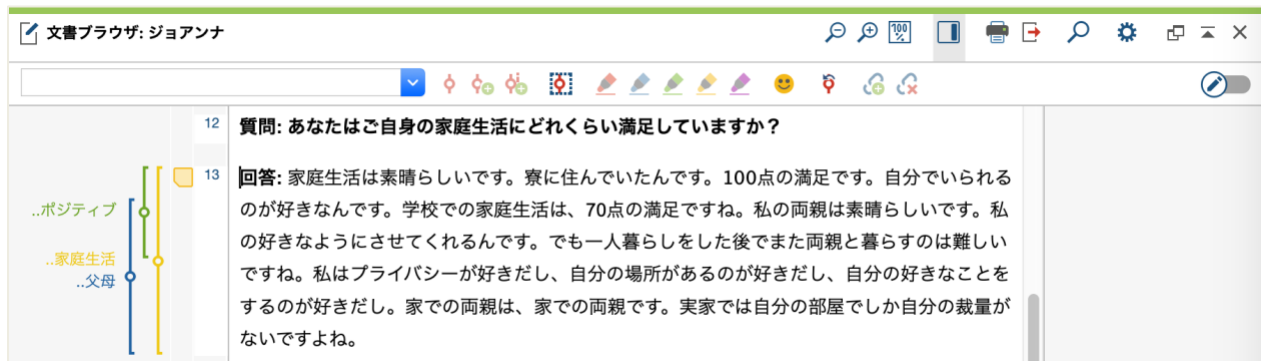


<インポート>タブからデータ形式(例えばトランスクリプトなど)に応じたアイコンをクリックしてもインポートできます。Windows エクスプローラーや Mac Finder から<文書システム>にファイルをドラッグ&ドロップも可です。<インポート>タブにはオプションが複数あります。スプレッドシートやフォーカスグループのトランスクリプトなど、特定種類のデータをインポートできます。(テキストを直接入力もできます。)

PC でのフォルダ作成・ファイル管理と同じ考え方で、MAXQDA の<文書グループ>を作成して文書を管理する事ができます。文書グループを右クリック、<文書をインポートする>を選択してください。ドラッグ&ドロップで文書のグループ間移動もできます。

データを検討する

質的データ分析は、データをよく理解することが重要です。<文書システム>の文書をダブルクリック、文書を開きましょう。下図のインタビュー書き起こしの一部がその例です。



段落番号は MAXQDA が自動的に付番し、チームでの意見交換(「段落 13 のメモ参照のこと!」)などや、段落全体のコーディングに便利です。データの出所引用時にも使えます。より細かい<行番号付きのテキストに変換する>機能もあります(テキスト中で右クリック)。

上図左欄には3色の縦線が表示され、黄色いポスト・イットもあります。縦線はコーディングストライプと呼ばれ、「ポジティブ」(や「家庭生活」や「父母」)で当該箇所がコーディングされたことを示します。左欄の幅は狭く、コード名が長いと一部のみしか表示できません。が、グレーのエリアをドラッグし幅を広げられます。ポスト・イットのアイコンはメモが(付箋のように)貼られていることを示します。

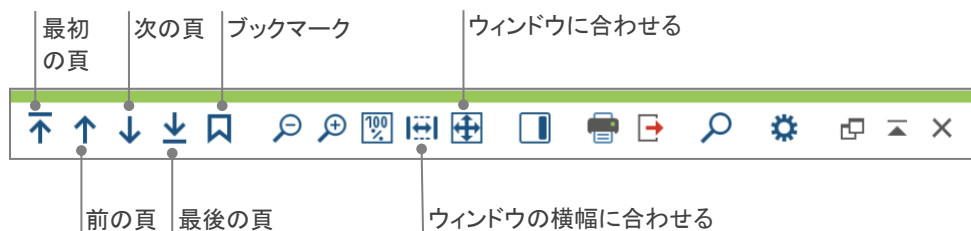
メモとは? メモとは自分なりの覚え書きです。ポスト・イットみたいに、テキスト、文書グループ、画像、オーディオやビデオクリップ、コード等に貼付できます。

文書を初めて<文書ブラウザ>で開くと、テキスト横の欄は空白です。コーディングやメモがまだないからです。メモを作成しましょう。メモ欄をダブルクリックするとダイアログボックスが開きます。メモについては後ほど説明しますので、一旦ボックスを閉じましょう。

<文書ブラウザ> 上部のツールバーには頻繁に利用される機能のアイコンがあります。



PDF ファイルをインポートし<文書ブラウザ>で開くとウィンドウのツールバーが変わります。DOC ファイルや RTF(リッチテキスト)ファイルと異なり、ページ単位で PDF ファイルを前後にめくったりできます。



分析過程で(段落番号が付番された)テキストを印刷したり PDF 形式で保存したいこともあるでしょう。それにはツールバーの<文書を印刷する>か、ショートカットの Ctrl+P (Windows の場合)、または cmd+P (Mac の場合)で操作します。また、メニューからレイアウト設定もできます。

プリンター: Microsoft XPS Document Writer

部数: 1

ページ: ☒ 全て ☐ ページ 例 1-3; 5-1; 1-; -5

向き: ☒ 縦 ☐ 横

余白 [cm]

左: 2,0 右: 2,0 上: 2,0 下: 2,0

☐ ヘッダー 部也 ☒ 日付 ☐ ページ番号

☒ フッター ☐ 日付 ☒ ページ番号

詳細設定

コードを表示する	☒
メモを表示する	☒
コーディング欄の最大幅 [%]	25

余白の設定

ヘッダ、またはフッタを入れる

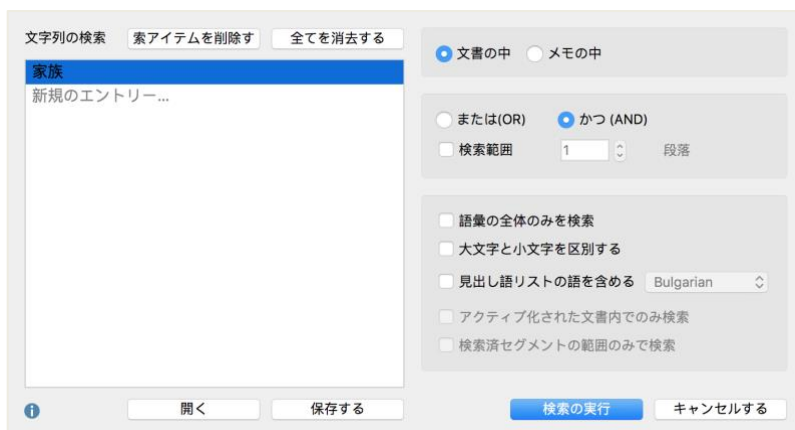
コーディングまたはメモの表示

印刷でコーディングストライプのためにあてられる最大幅

データを検索する

特に分析初期では、文書内の語彙検索が有効な場面があるでしょう。MAXQDA では 4 つのすべてのウィンドウで検索可能です。各ウィンドウのツールバーの虫眼鏡から検索語を入力しましょう。検索語の登場頻度が表示され、矢印ボタンで次の該当箇所へジャンプできます。

各領域内の＜語彙検索＞よりもパワフルなツールは ＜分析＞タブの＜語彙検索＞です。語彙検索により、現在開かれている文書のみならず、複数の文書内を同時に検索できます。



例えば、このように検索語として「家族」が入力されると、すべての文書内が検索されます。

ウィンドウを開くと検索語を入力できます。一語でも複数でも可能です。エンターキーで入力を終了するか、検索文字列を追加します。検索の基本設定は OR 検索で、いずれかの語がヒットすれば表示されます。検索結果のアイテムをクリックすると、該当箇所が＜文書ブラウザ＞に表示されます。

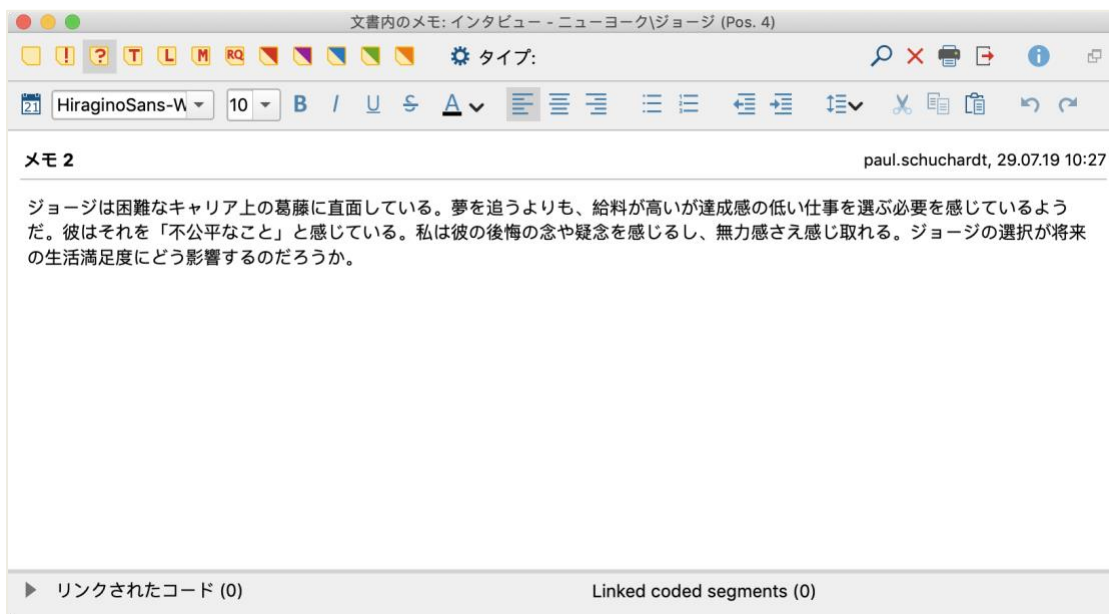
色彩コーディングとメモ

テキストをハイライトしたり、アイデアを記したい場合もあります。鉛筆で書き込んだり、余白が狭いとポスト・イットを活用するのと同じことが MAXQDA でも可能です。色彩コーディング機能として＜文書ブラウザ＞上部に 5 色のマーカーが備わり（赤、青、緑、黄、赤紫）、テキストをハイライトできます。



当該箇所をマウスで選択、好きな色のアイコンをクリックすると色彩コーディングされます。ペンで本にマーキングするのと同じ、MAXQDA では色彩コーディングされた箇所を簡単に見つけられます。コーディング箇所の検索方法は、後述の「データを分析する」で紹介します。色彩コーディングは、本格的なコーディング作業の準備としても活用できます。

＜メモ＞機能も便利です。＜文書内のメモ＞から、文書のどこにでもメモを添付できます。文書中の任意の箇所を選択し、右クリック、コンテキストメニューから新規メモを作成できます。アイデアを自由に書き留めましょう。



メモにはタイトルを付け、適切なアイコンを割り当て、コードにリンクもできます。

メモに後から戻ってくるのは簡単です。＜メモ＞タブから、一般的な検索や特殊な検索ができます。検索結果は一覧表として確認でき、そこでメモの管理・編集・フィルタリングができます（例えば一定期間に作成したメモの表示など）。

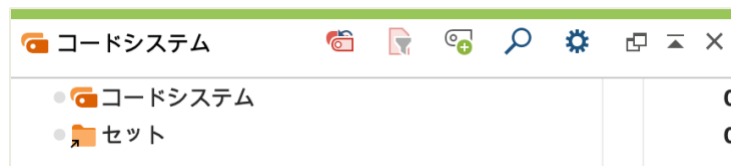
データをコーディングする

データのセグメントをコーディングする

前述のように、多くの場合、分析方法の要は**データのコーディング**です。コーディングとはデータ(テキストや画像等)の一部をマウスで選択し(Word 等のプログラムで行うのとはほぼ同じ動作)、その箇所にコードを割り当てることです。タグ付けしたり、見出しを付けるような原理です。しかし、経験的・社会的調査におけるコーディングには、それ以上の意味があります。

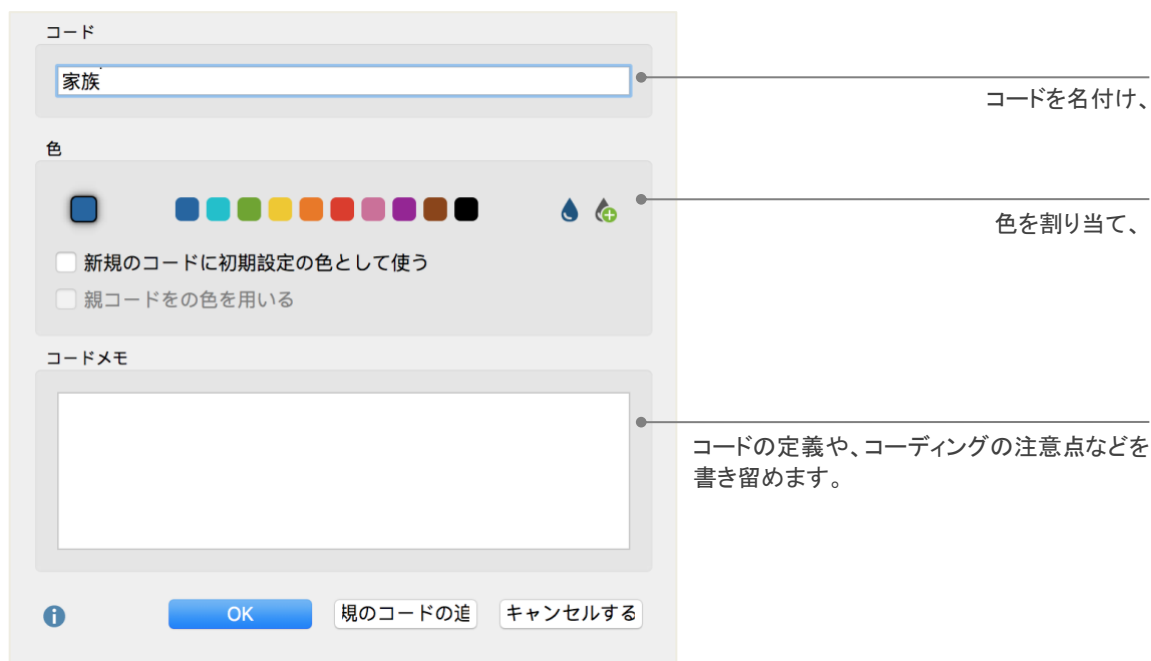
では、コードとは何でしょう。コードというと、スパイや暗号機・解読機、あるいはモールス符号みたいに明確に定義されたコードが連想されるかもしれませんが、ですが、これらとは少し違います！質的研究におけるコードは、テキストや画像中の現象を名付けるラベル以上のものです。技術的には、MAXQDA におけるコードとは最長 63 からなる文字列です。一つから複数の語でも良いし、暗号めいた“CR128”や“LH454”といった文字列も使えます。社会調査の研究プロセスではコードは様々な意味や機能を持ちます。例えば**事実に関するコード**、**テーマによるコード**、**理論的なコード**などの区別があります(Kuckartz & Radiker 2019; Richards 2014)。特定のコードがその研究プロジェクトで末梢的なものか、あるいは重要な役割を果たすカテゴリかを、コードの字面のみで判断することはできません。文脈やレーミングの仕方によってその意味が変わるからです。

コードは次のように作成できます。＜コードシステム＞ウィンドウの＜コードシステム＞を右クリック、コンテキストメニューから＜新規のコード＞を選択してください。また、ツールバーのアイコンからも作成可能です。ポインタをコードの上にかざすと現れる緑のプラス記号からも作成できます。



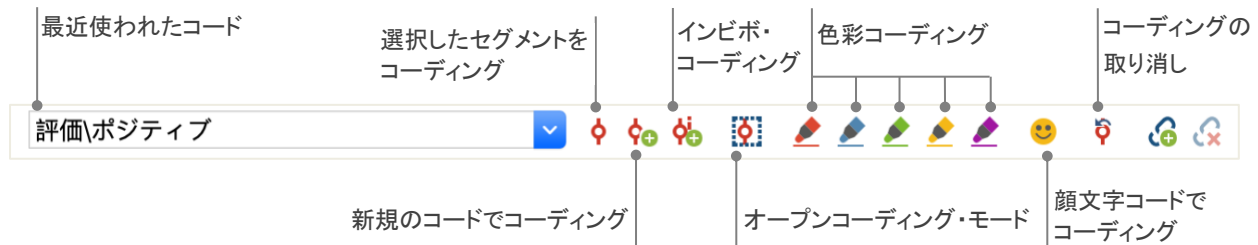
虫眼鏡をクリックすると特定のコードが検索できます。その隣が、新規のコードのアイコンです。

以下は新規のコードを定義するダイアログボックスです。



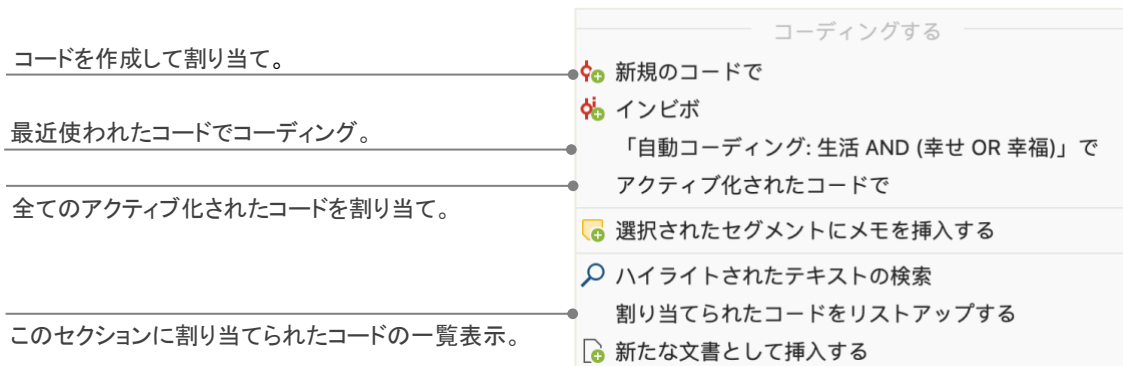
コードは次の手順で文書のセグメントに割り当てられます。まず、任意の箇所を選択します(段落番号をクリックすると段落全体が選択されます)。そして、そのテキストセグメントを任意のコードにドラッグ & ドロップするだけです。逆に、コードを選択されたセグメントにドラッグ & ドロップすることも可能です。コーディングができれば、＜コードシステム＞のコード横の“0”の表示が“1”に変わります。これはコーディングされた箇所の数です。＜文書システム＞の各文書の横には、その文書におけるそのコーディングの数が表示されます。

MAXQDA ではコーディングの可能性をさらに提供しています。文書内の選択された箇所を右クリックするか、＜文書ブラウザ＞上部のツールバー＜コード＞のアイコンからもアクセスできます。ツールバーは下図のようなものです。



左端のウィンドウには最近使われたコードが表示されます。その右の赤いアイコンをクリックすると、選択されたテキストセグメントにそのコードが割り当てられます。その他のアイコンも便利です。例えば＜コーディングの取り消し＞アイコンで、最近実行されたコーディング一覧を表示しコーディングを取り消せます。

＜文書ブラウザ＞のコンテキストメニューにもコーディングのオプションがいくつかあります。テキストのセグメントを選択し、右クリックすると、オプションが表示されます。



データを分析する

文書をアクティブ化する

語彙検索で<アクティブ化された文書のみ>という項目を見て、それが何か疑問に思われたかもしれません。<アクティブ化>は MAXQDA の中心的機能の一つです。特定の文書(やコード)のみを対象に作業することを可能にします。アクティブ化はとてもシンプルで、次のように機能します。各文書や文書グループを右クリックすると現れるメニューの上部に<アクティブ化する>があります。文書やフォルダ名の左の丸いグレーアイコンをクリックするだけでも文書や文書グループをアクティブ化できます。

▼ ●	インタビュー - ニューヨーク	M	133
●	ジョージ		40
●	キム		18

▼ → ●	インタビュー - ニューヨーク	M	133
→ ●	ジョージ		40
●	キム		18

アクティブ化の有無の判別は簡単です。文書・文書グループ名が赤くなり、横のアイコンが赤い矢印になります。MAXQDA インターフェース最下部バーの左端にはアクティブ化された文書数が表示されます。語彙検索などの検索を特定文書に制限する場合、当該の文書をアクティブ化し、語彙検索のオプションで<アクティブ化された文書のみ>を選択します。

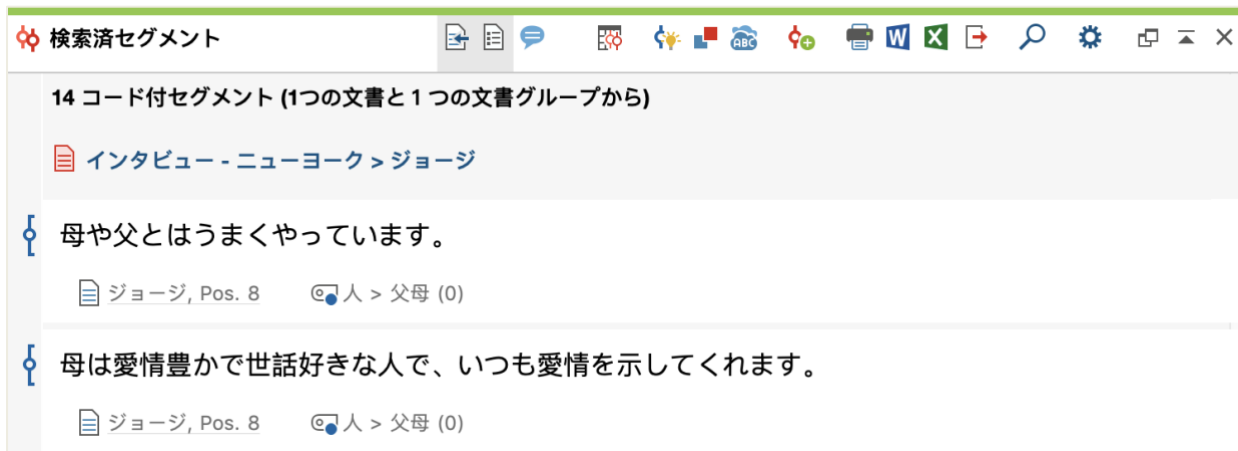


アクティブ化の解除も簡単です。<文書システム>ツールバーの左端、<アクティブ化を元に戻す>アイコンをクリックするだけです。文書や文書グループの左横のアイコン(前述)をクリックするだけでも可能です。

特定のコードでコーディングされた箇所(コード付セグメント)を呼び出す

機械的なコーディングが分析の全てではありません。コーディングと並行して、その経過を検討する必要もあるでしょう。単純明快な方法はコーディング箇所(コード付セグメント)を一気に呼び出すことです。インタビューでは例えば、あるテーマについてどのような発言があり誰がそれを言っているか確認したいことが往々にしてあるでしょう。〈検索(retrieval)〉ないし〈コーディング・クエリ〉がここで力を発揮します。〈語彙検索〉と同じく、アクティブ化により活躍します。

〈コーディング・クエリ〉に含めたい文書とコードをアクティブ化しましょう。コードは文書と同様にアクティブ化できます(コードを右クリックし〈アクティブ化〉を選択またはコード名の左横のアイコンをクリック)。検索結果は第 4 のウィンドウ〈検索済セグメント〉に出所と共に表示されます。下図の例では、文書グループ“インタビュー - ニューヨーク”の“ジョージ”の文書が出所です。



出所は当該セグメントの元になる文書を示すだけではありません。元のテキストにジャンプできます。つまり出所をクリックすると〈文書ブラウザ〉に当該テキストが読み込まれます。このように、適宜元の文脈を参照できます。

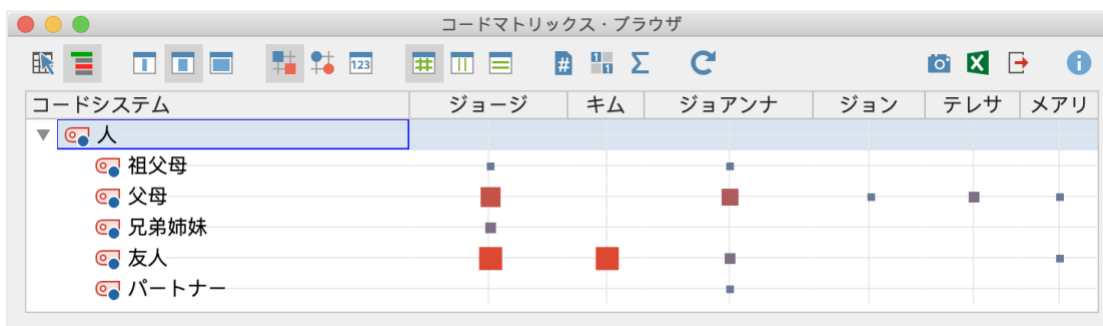
図解ツールを活用する

MAXQDA は、分析過程や結果を様々に視覚化できます。例えばコードや文書に色を当て、データの視覚的整理や、色に即した特別な意味をもたせることができます。また MAXQDA は、絵文字コードを導入した初の質的データ分析ソフトです。言語障壁のある国際プロジェクトなどで絵文字コーディングは有効です。

データ間の関連を明確化するツールもあります。主に利用される図解ツールは＜コードマトリックス・ブラウザ＞です。＜図解ツール＞タブから開きましょう。



＜コードマトリックス・ブラウザ＞は下図のようなものです。



各列は各文書を示します。この例はある研究プロジェクトのインタビューデータです。「人」にまつわるコード・サブコードがアクティブ化され、表示されています。この例では、コード「祖父母」についてはインタビュー対象者のうち 2 名が、「父母」については 5 名が、「兄弟姉妹」「パートナー」については 1 名が言及しているのが分かります。

混合研究法による分析

文書変数を定義する

混合研究法ができるのも MAXQDA の特長です。＜文書システム＞のどの文書に対しても、様々な属性（＝統計でいう変数）を管理できます。例えば個人データや背景情報を、変数／変数値として記録、混合研究法に活かします。＜変数＞タブから＜文書変数の一覧表＞を開けます（下図）。

データ編集 新規の変数を作成

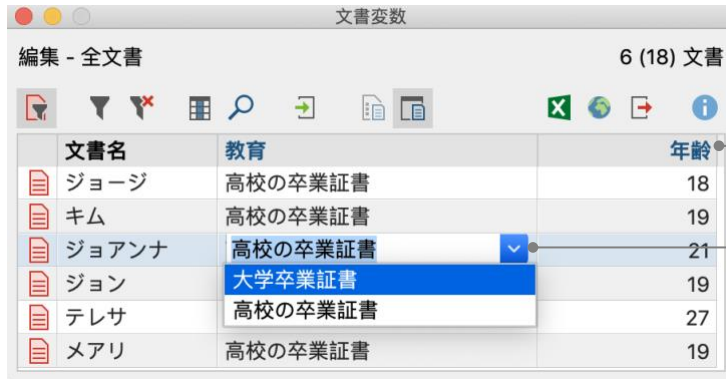
文書変数の一覧表 13 変数

変数	変数タイプ	表示されている	ソース	欠測値	カテゴリカル	ツールチップとして表示する
■ 文書グループ	テキスト	☒	システム		☒	☐
■ 文書名	テキスト	☒	システム		☒	☐
■ 作成者	テキスト	☐	システム		☐	☐
■ 作成日	日付/時間	☐	システム		☐	☐
■ 〜によって変更された	テキスト	☐	システム		☐	☐
■ 変更: 日付	日付/時間	☐	システム		☐	☐
■ コード付セグメント	整数	☐	システム		☐	☐
■ メモ	整数	☐	システム		☐	☐
■ 年齢	整数	☒	ユーザ		☐	☐
■ タウン	テキスト	☒	ユーザ		☒	☐
■ 配偶者の有無	テキスト	☐	ユーザ		☒	☐
■ 教育	テキスト	☐	ユーザ		☒	☐
■ ポジティブ	整数	☒	コード		☒	☐

上図のように、いくつかの変数が既に定義されています。これらはシステム変数と呼ばれ、その値は MAXQDA により自動的に定義されており、変更できません。＜新規の変数＞アイコンをクリックすると変数を定義できます。一般的な変数には「テキスト」タイプ（「職業」が変数、「教師」や「学生」が変数値など）や、整数（子供の数など）があります。新規変数の定義はいつでもできます。

変数値を入力する

＜文書変数＞の値を入力するには、＜文書変数の一覧表＞のツールバーの＜データ編集＞から行なってください。



文書名	教育	年齢
ジョージ	高校の卒業証書	18
キム	高校の卒業証書	19
ジョアンナ	高校の卒業証書	21
ジョン	大学卒業証書	19
テレサ	高校の卒業証書	27
メアリ	高校の卒業証書	19

各列の見出しをクリックするとこの変数に従って並び替えられます。

セルをダブルクリックすると変数値が入力できます。

文書変数の一覧は Excel や SPSS 形式にエクスポートできます。それにより SPSS や Stata のような統計ソフトで作業を続け、統計分析を実施できます。

コードの頻度を変数に変換する

特定のコードが異なる文書に割り当てられている頻度を変数に変換できます。その変数はそのコードの名前になります。目当てのコードを右クリック、＜文書変数に変換する＞を選択してみましょう。下図の例では、コード「ポジティブ」が文書変数に変換されます。



文書名	教育	年齢	ポジティブ ^
テレサ	大学卒業証書	27	0
メアリ	高校の卒業証書	19	0
ケリー	大学卒業証書	18	0
ジャック	大学卒業証書	21	0
キム	高校の卒業証書	19	1
ジョン	大学卒業証書	19	2
グレース	大学卒業証書	19	2
ジョアンナ	高校の卒業証書	21	3
ジョージ	高校の卒業証書	18	8

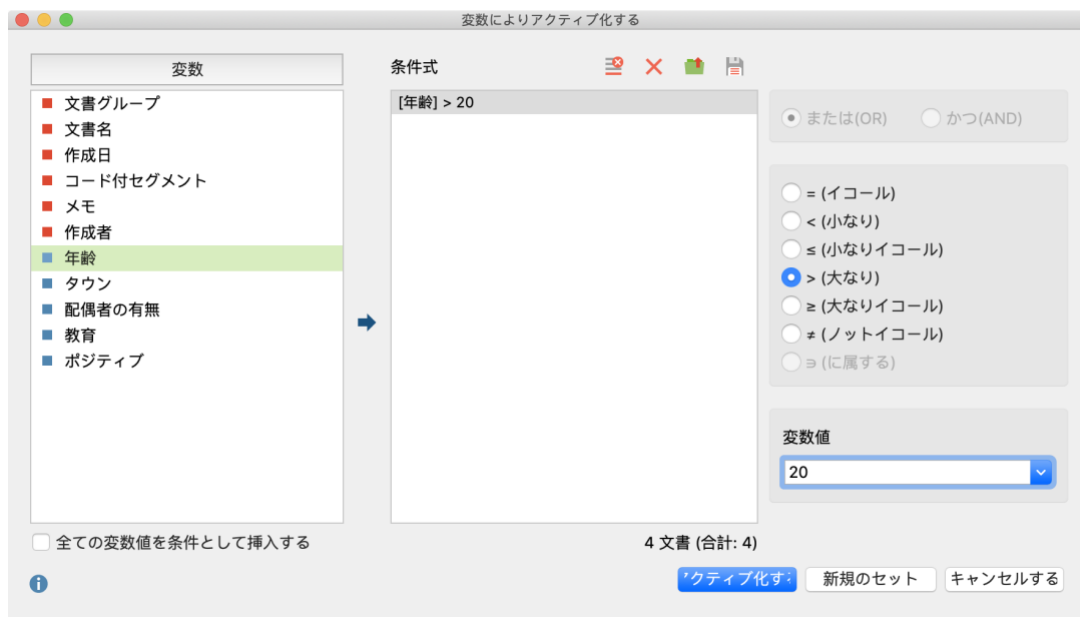
“0”は「ポジティブ」が割り当てられていないことを意味する。

インタビュー「ジョアンナ」では3 セグメント

分析における文書変数

量的データと質的データは様々な形で結合できます。最も簡単な方法は、文書変数を選択基準に＜コーディング・クエリ＞を用いることです。これによって、社会統計的特徴の比較ができます（「50 歳以上の独身のグループが X をどう語っているか」とか、「パートナーのいるグループはどう言っているか」など）。選択は、＜混合研究法＞タブの＜文書変数によりアクティブ化する＞で実行できます。

ダイアログボックスでは左の欄で変数を選び（下図の例では「年齢」）、横の矢印をクリック、適用する変数値を右の欄で定めます（ここでは、“＞（大なり）”）。＜アクティブ化する＞をクリックすると論理条件が適用され、21 歳以上の対象者が文書システム中でアクティブ化されます。



おわりに

MAXQDA の主要な特徴をご紹介したこのガイドが、皆様のお役に立つことを期待します。MAXQDA には以下のものを含む様々な機能や使い方があります。

- ❖ 文献レビューの作成
- ❖ 音声・動画ファイルの文字起こし
- ❖ Twitter や YouTube データのインポートと分析
- ❖ フォーカスグループの分析
- ❖ データの視覚化
- ❖ MAXDictio を用いた量的テキスト分析
- ❖ レポートや記述統計表の生成

ウェブサイト www.maxqda.com では MAXQDA の下記のような数々の情報を閲覧できます。

- ❖ 無料のオンラインセミナー
- ❖ オンラインマニュアル
- ❖ ビデオチュートリアル
- ❖ 開催予定のワークショップ
- ❖ MAXQDA トレーナーのデータベース
- ❖ 研究ブログ、ユーザフォーラム など

MQIC – MAXQDA International Conference

ドイツのベルリンで毎年開催される [MAXQDA International Conference](http://www.mqic-berlin.com) は、世界各国のユーザが参加します。この集まりでは、MAXQDA や混合研究法に関わる充実したプログラムが組まれます。世界のユーザや MAXQDA 開発チームとのネットワーキングのためのまたとない機会です。詳細は以下のページをご覧ください。www.mqic-berlin.com

参考文献

- Charmaz, Kathy (2014). *Constructing Grounded Theory*. 2nd ed., San Francisco: SAGE Publications.
- Corbin, Juliet; Strauss, Anselm (2015). *Basics of Qualitative Research. Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory*. 4th ed., San Francisco: SAGE Publications.
- Kuckartz, Udo; Rädiker, Stefan (2019). *Analyzing qualitative data with MAXQDA: Text, audio, video*. Heidelberg: Springer.
<http://link.springer.com/10.1007/978-3-030-15671-8>
- Kuckartz, Udo (2014). *Qualitative Text Analysis. A Guide to Methods, Practice and Using Software*. London: SAGE Publications.
- Kuckartz, Udo (2014). *Mixed Methods. Methodologie, Forschungsdesigns und Analyseverfahren*. Wiesbaden: Springer VS.
<https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-531-93267-5>
- Richards, Lyn (2015). *Handling Qualitative Data. A Practical Guide*. 3rd ed., London: SAGE Publications.
- Woolf, Nicholas H.; Silver, Christina (2018). *Qualitative Analysis Using MAXQDA: The Five-level QDA Method*. New York, NY: Routledge.

14日間の体験版を
ダウンロードいただけます
maxqda.com/japan



MAXQDA



@VerbiSoftware



@MAXQDA



Software – Consult –
Sozialforschung GmbH - Berlin, Deutschland